

本縣統計協會總會

提出議案悉く原案可決

三月八日縣廳内に開催

酒井守衛（鹿島郡）小貫三郎（行方郡）鴻
 巢清（稻敷郡）山中林次郎（筑波郡）遠藤
 弘（猿島郡）新井芳之助（北相馬郡）以上各
 支部長、佐川 忠（久慈郡）箕輪喜平（行
 方郡）以上各評議員小林祿、成瀬常吉、
 高島萬藏、齋藤清市以上各幹事

で山本會長議長席につき川崎副會長か
 ら提案の説明をなし各案を一括議題に
 供し異議なく原案を可決、評議員改選
 は東茨城郡山根村長粉川幸之介、那珂
 郡佐野村長清水廣之介、久慈郡賀美村
 長佐川忠、行方郡麻生町長箕輪喜平、
 新治郡土浦町長秋谷徳一、眞壁郡關本



縣統計協會昭和十一年度總會は三月
 八日午前十一時五分から縣參事會室に
 開催された。之より先評議員會を開催
 總會に提出する。

昭和十二年度歳入歳出豫算△昭和十二年
 度市町村負擔金分賦方法△昭和十二年
 事業計畫△昭和十年度歳入歳出決算△評
 議員改選

の各案につき慎重審議の結果之を決定
 し直ちに總會に移つた。出席者は

山本會長、川崎副會長、中崎俊秀（水戸市）
 粉川幸之介（東茨城郡）小島善五郎（茨西
 城郡）大内比義（那珂郡）宮田厚（多賀郡）

町長池田穂の各氏を重任とし尙一名は
 北相馬郡内守谷村長新井芳之助氏を指
 名決定し同十一時五十五分總會を終る
 議決された十二年度豫算其の他の議案
 内容は左の如くである。（カッツは總會）

十一年度庶務報告

一、茨城統計の刊行

機關雜誌茨城統計は昭和十年一月創刊號
 刊行以來第三卷第一號に及び毎回會員は
 勿論其の他購讀者に配本し其の一回の發
 行部數四千五百部に及ぶ

一、縣勢要覽等の出版及諸用紙の印刷

縣編纂に係る昭和十一年刊行縣勢要覽の
 頒布方に就き縣の承認を経て八百五十部
 を増刷し學校其の他の頒布希望の向に有
 償にて配布する外昭和十二年所要の統計
 報告用紙、統計調査員手簿、事蹟簿其の
 他統計調査諸用紙を印刷して孰れも有償
 にて配布したり

一、統計事務視察員派遣

千葉縣下に於ける優良町村夷隅郡大原町
 安房郡田原村を選定し六月十一日、十二
 日の二日間左記の者を選抜派遣視察せし
 め豫期の効果を收得したり歸會後報告書
 を提出したり

- | | |
|-----------|--------|
| 水戸市 警 肥 | 幾浦 武男 |
| 西茨城郡西山村書記 | 羽方 慶治 |
| 那珂郡那田村書記 | 岡崎 輝吉 |
| 多賀郡日立町書記 | 大内 健司 |
| 鹿島郡息栖村書記 | 大塚 廣一 |
| 行方郡武田村書記 | 小貫 三郎 |
| 稻敷郡柴崎村書記 | 油原 眞 |
| 新治郡七會村書記 | 高平 寬 |
| 筑波郡高道祖村書記 | 飯岡 榮助 |
| 眞壁郡下宿町書記 | 田中 健兒 |
| 結城郡豊岡村書記 | 中島 良平 |
| 猿島郡長田村書記 | 加藤 由之助 |
| 北相馬郡高野村書記 | 渡邊 留吉 |
- 一、内閣統計講習會受講生の派遣
 自七月二十日至八月八日内閣統計局に於
 て内閣統計講習會開催に付聽講生として
 左記の者を選衡の上派遣したり
- | | |
|----------|-------|
| 久慈郡賀美村書記 | 助川 國勝 |
| 多賀郡磯原町書記 | 長瀬 昇 |

一、統計思想普及

統計思想の普及徹底を圖る爲縣より活動
 映寫機の貸付を受け本會に於てフィルム
 其の他之が附屬物を購入し映畫會並講話
 會を開催したり開催町村は三十三ヶ村三
 十四ヶ所にして會衆二萬五千人に達せり
 △東茨城郡上野合、堅倉、山根△西茨城
 郡北山内、西山内△那珂郡石神、神崎△
 久慈郡機初、郡戸、染和田、賀美△多賀
 郡日高、黒前△鹿島郡沼前、大谷、諏訪
 △行方郡立花、秋津△稻敷郡君賀、鳩崎
 △新治郡林、戀瀬、森穂△筑波郡谷井田
 豊△眞壁郡紫尾、村田△結城郡山川、中
 結城△猿島郡道井山、八俣△北相馬郡高
 須、北文間

一、統計事務の實地指導

統計調査の適正と單位觀察の正確を期す
 る目的を以て縣と相呼應し調査員會、研
 究會に職員を派遣し實地指導に努めたり
 本期に於ける指導箇所は二十六ヶ町村な
 り

一、統計事務成績者の表彰

統計調査に關し特に成績顯著なる者を統計協會支部長の推薦に依り各表彰することに決定、去る二月十一日の佳節に發表し統計協會支部總會の際副會長より傳達す

一、總裁顧問の更迭

本會總裁安藤狂四郎氏十二年一月八日附三重縣に榮轉せられたるに附會則第七條に依り林信夫氏總裁となりたり

- 一、顧問經濟部長柴山博氏、警察部長八田三郎氏、庶務課長宮司功氏轉任せられ、農林課長前田稔氏退職に付き會則第十條に依り左記の者を顧問に依頼したり

- 經濟部長 井上 文 介氏
警察部長 生 悅 住 求 馬氏
庶務課長 岡 田 光 藏氏
地方課長 松 尾 友 雄氏

一、幹事異動

本會幹事虎口兼廣氏は社會課に、幹事那司常成氏は會計課に轉勤に付左記の者を囑託したり

高 島 萬 藏 氏

一、會務委員異動

會務委員關三喜氏は會計課へ、全山守氏は松原稅務出張所に轉任せられ全岡崎弘氏は退職せられ全高島萬藏氏全齋藤清氏は本會幹事となりたるに依り左記の者を囑託したり

- 池 田 正 雄氏
小 倉 英 二氏
薮 利 男氏
大 沼 正 忠氏
阿久津 末 一氏

齋 藤 清 市氏

一、囑託異動

茨城統計編輯囑託富岡福壽朗氏十二月二十四日死亡に付左記の者を囑託したり

加 藤 敬 愛氏

十二年度協會豫算

Table with 2 columns: 歳入 (Income) and 歳出 (Expenditure). Total income is 8,877. Total expenditure is 8,877.

Table with 3 columns: 科目 (Category), 本年度 豫算額 (This Year Budget), 前年度 豫算額 (Previous Year Budget), 比(△/▽) (Ratio). Lists various budget items like 第一項會費, 第一項補助金, etc.

第七款寄附金

Table with 3 columns: 第一項寄附金, 第一項寄附金, 合 計. Total is 8,877.

▲歳 出

Table with 4 columns: 科目 (Category), 本年度 豫算額 (This Year Budget), 前年度 豫算額 (Previous Year Budget), 比(△/▽) (Ratio). Lists various expenditure items like 第一項事務所費, 第一項手當, etc.

十二年度協會會費分賦方法

昭和十一年十月一日現在を以て縣に於て調査したる現住戸數に依り五階級に區別分賦するものにして五月末日迄に本會に納付するものとす

Table with 4 columns: 現住戸數 (Current Resident Households), 市町村名 (Municipality Name), 分賦金 (Assessment Amount), 計 (Total). Lists assessment amounts for different household categories.

△戸數五百以上

△東茨城 上大野、下大野、稻荷、酒門、石崎、吉田、線岡、河和田、長岡、上野合、白河、橋小川、竹原、堅倉、川根、鯉淵、下中妻、渡里飯富、石塚、西郷、岩船、澤山、大貫、計二五

- △西茨城 宍戸、岩間、南川根、大原、大池田、七會、北山内、南山内、西山内、東那珂、北那珂、岩瀬、計一二
- △那珂 平磯、前渡、中野、勝田、川田、佐野、村松、石神、神崎、額田、菅谷、五臺、國田、巖郷、戸多、芳野、木崎、瓜連、靜、大場、上野、大宮、大賀、玉川、山方、楡澤、小瀬、野口、長倉、八里、計三〇
- △久慈 機初、世矢、幸久、佐竹、郡戸、久米、金郷、世喜、金砂、天下野、染和田、山田、譽田、河内、中里、賀美、小里、生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野、太田、久慈、計二九
- △多賀 坂上、國分、河原子、鮎川、豊浦、櫛形、松岡、高岡、南中郷、華川、關南、大津平湯、關本、計一四
- △鹿島 夏海、大谷、沼前、巴、徳宿、諏訪、鉾田、新宮、上島、白鳥、大同、中野、鹿島、高松、息栖、輕野、若松、矢田部、波崎、計一九
- △行方 麻生、香澄、潮來、大和、津澄、武田、秋津、立花、玉造、延方、計一〇
- △稻敷 江戸崎、安中、木原、君原、阿見、朝日、奥野、岡田、莖崎、牛久、馴柴、八原、

- 柴崎、阿波、古渡、龍崎、大宮、生板、金江津、計一九
- △新治 眞鍋、上天津、佐賀、安節、志士庫高濱、田余、園部、懸瀬、葦穂、柿岡、小幡、小櫻、七會、都和、藤澤、祭、九重、中家、東計二〇
- △筑波 谷田部、久賀、眞瀬、島名、旭、上郷、吉沼、筑波、北條、小川、大鶴、小野川、計一二
- △眞壁 養蠶、河間、五所、伊譜、大田、關本、上妻、川西、下妻、大寶、黒子、嘉田生崎、村田、上野、大、長譜、古里、紫尾、樺穂、雨引、眞壁、大國、新治、小栗、計二四
- △結城 絹川、江川、山川、中結城、名崎、安齋、菅原、下結城、豊岡、西豊田、宗道、石下、三妻、飯沼、水海道、計一五
- △猿島 新郷、勝鹿、岡郷、櫻井、香取、五霞、長田、八俣、幸島、猿島、森戸、生子菅、逆井山、七重、香掛、神大寅、岩井、七郷、中川、寛、長須、計二一
- △北相馬 菅生、守谷、取手、相馬、計四
- △戸數五百未滿 東茨城、大場、上中妻、中妻、山根、小松、伊勢如、坪、計七

- △西茨城 北川根、計一
- △那珂 柳河、鹽田、計二
- △久慈 坂本、東小澤、西小澤、高倉、佐都計五
- △多賀 日高、黒前、計二
- △鹿島 波野、豊郷、豊津、計三
- △行方 八代、津知、大生原、太田、要、現原、玉川、行方、小高、手賀、計一〇
- △稻敷 君賀、沼里、鳩崎、舟島、長戸、根本、太田、高田、伊崎、大須賀、浮島、長竿、源清田、十余島、本新島、計一五
- △新治 下天津、美並、牛渡、關川、玉川、五會、林、志筑、新治、斗利出、山ノ莊、栗原三、計一三
- △筑波 小張、板橋、三島、谷井田、豊、鹿島、長崎、十和、福岡、作岡、田水山、菅間、田井、葛城、高道祖、計一五
- △眞壁 谷貝、鳥羽、騰波ノ江、河内、中、竹島、計六
- △結城 上山川、大形、岡田、大花羽、總上、豊加美、蠶飼、玉、豊田、五箇、大生、計一一
- △猿島 靜、弓馬田、飯島、計三
- △北相馬 坂手、内守谷、小絹、大井澤、大野、高野、高井、稻戸井、山王、寺原、井野、小文

間、六郷、高須、川原代、北文間、文、布川、文間、東文間、計二〇

十二年度事業計畫

一、會報の發行

本年度に於ても機關雜誌茨城統計を隔月に發刊し統計主任及統計調査員をして閱讀せしめ事務の刷新改善に寄與せしむると共に其の他希望の向の購讀に應じ統計思想の普及に努めんとす

一、統計事務の實地指導

統計事務の向上を圖らんが爲市町村に於ける統計調査員會、研究會、協議會等開催の際職員を派遣し實際的指導を行はんとす

一、統計思想普及映畫會

統計事務不振の町村より順次輪番に各郡毎に統計思想普及映畫會を開催し其の向上發展を期せんとするものなり
然して右輪番を待たず開催希望の町村に對しては所要費を負擔するものに限りに開催するものとす

一、統計功勞者の表彰

本會表彰規程に基き成績優良なる吏員並統計調査員を銜衡し表彰を行はんとす

一、内閣統計講習會講習生の派遣

統計職員向上の目的を以て内閣統計局に於て開催せらるる統計講習會に本會より補助金を交付して町村吏員を派遣せんとす

一、統計事務優良町村視察員の派遣

統計事務優良町村を視察し以て自村の事務に比較し探長補短の實を擧げしむるは事務の向上を圖る上に於て最も緊要なるを以て本年度に於ても本會より補助金を交付し統計事務視察員を派遣せんとす

一、郡支部事業費に對する補助

本會郡支部の發展助長を期せんが爲其の費用の一部として使用せしむることとし少額ながら之が交付金を掲せり

一、圖書、諸用紙の出版、印刷

一、縣編纂に係る縣勢要覽を増刷し希望の向へ有償にて頒布せんとす

一、統計報告用紙其の他の印刷
統計報告用紙及其の他の調査諸用紙統計調査員手簿を印刷の上有償にて希望の向へ配付せんとす

十年統計協會決算

歳入	一金六千九百九拾五圓貳拾四錢
歳出	一金五千八百九拾五圓參拾七錢
差引	歳入歳出差引殘金壹千九拾九圓八拾七錢
▲歳入	(△印ハ減)
科 目	本年度 本年度 豫算ニ比
	決算額 豫算額 シ増減
第一款會費	一、四九〇・〇〇 一、四九〇・〇〇
第一項會費	一、四四〇・〇〇 一、四四〇・〇〇
第一目分賦金	一、四三〇・〇〇 一、四三〇・〇〇
第二款繰越金	九四・六六 一五〇・〇〇 七四・六六
	五九

第一項前年度	九四・七六	二五〇・〇〇	七四九・七六	第二項旅費	九・九〇	一〇〇・〇〇	△八・九五
第一項前年度	九四・七六	二五〇・〇〇	七四九・七六	第三目諸備給	一〇・〇〇	一〇・〇〇	—
第三項預金利息	四七・七五	一五・〇〇	七五・七五	第四目賞與	一〇・〇〇	一〇・〇〇	—
第一項預金利息	四七・七五	一五・〇〇	七五・七五	第二項需用費	四九・三二	七四七・〇〇	△二八・六八
第一項預金利息	四七・七五	一五・〇〇	七五・七五	第一目備品費	一四・七〇	一〇・〇〇	△四・七〇
第二項統計大會	三六・八九	一五・〇〇	二一・八九	第二目通信	三九・五五	五三三・〇〇	△一三三・四五
第二項統計大會	三六・八九	一五・〇〇	二一・八九	第三目消耗品費	五九・五五	一〇〇・〇〇	△四〇・七〇
第四項出版收入	四〇・六六	四〇・六六	△〇・一四	第四目印刷費	一六・四〇	一〇〇・〇〇	△八三・六〇
第四項出版收入	四〇・六六	四〇・六六	△〇・一四	第五目雜費	四四・七一	一五・〇〇	△二九・七一
第一項出版收入	四〇・六六	四〇・六六	△〇・一四	第二項會議費	九・五元	一五〇・〇〇	△一四〇・五元
第一項出版收入	四〇・六六	四〇・六六	△〇・一四	第一項會議費	九・五元	一五〇・〇〇	△一四〇・五元
第五項雜收入	四七・四三	三三〇・〇〇	二四七・四三	第二目評議員	二〇・八元	五〇・〇〇	△二九・一二
第五項雜收入	四七・四三	三三〇・〇〇	二四七・四三	第二目總會費	七四・四元	一〇〇・〇〇	△二五・五元
第一項過年度	四七・四三	三三〇・〇〇	二四七・四三	第三項事業費	四三・六元	四四・〇〇	△七・四元
第一項過年度	四七・四三	三三〇・〇〇	二四七・四三	第一項事業費	四三・六元	四四・〇〇	△七・四元
第二項廣告料	四〇・六六	一〇〇・〇〇	△五九・三三	第二項雜誌費	一六・七五	一六・七五	—
第二項廣告料	四〇・六六	一〇〇・〇〇	△五九・三三	第二項雜誌費	一六・七五	一六・七五	—
第六項寄附金	二二・〇元	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇元	第三日表彰費	五・五元	三三・〇〇	△二七・五元
第六項寄附金	二二・〇元	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇元	第四日實地指導費	二・七元	一〇〇・〇〇	△九七・三元
第一項寄附金	二二・〇元	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇元	第四項補助費	三三〇・〇〇	三三〇・〇〇	—
第一項寄附金	二二・〇元	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇元	第一項補助費	三三〇・〇〇	三三〇・〇〇	—
歲入合計	六九五・三三	六六六・〇〇	六六六・三三	第一日統計講習會	一〇・〇〇	一〇〇・〇〇	△九〇・〇〇
歲入合計	六九五・三三	六六六・〇〇	六六六・三三	第二日視察	一四〇・〇〇	一四〇・〇〇	—
第一項事務所費	九六・七六	一・〇〇	△九五・七六	第五項積立金	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一項事務所費	九六・七六	一・〇〇	△九五・七六	第五項積立金	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一項諸給	四七・〇元	一四〇・〇〇	一四七・〇元				
第一項諸給	四七・〇元	一四〇・〇〇	一四七・〇元				
第一目手當	三三〇・〇〇	一〇〇・〇〇	二三〇・〇〇				
第一目手當	三三〇・〇〇	一〇〇・〇〇	二三〇・〇〇				

第一項統計大會	三三六・六元	一〇〇・〇〇	二三六・六元
第一項統計大會	三三六・六元	一〇〇・〇〇	二三六・六元
第六項過年度支出	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—
第六項過年度支出	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—
第一項過年度支出	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—
第一項過年度支出	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—
第七項豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第七項豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一項豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一項豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一日豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
第一日豫備費	三三六・六元	一〇〇・〇〇	△二三六・六元
歲入合計	五八五・三三	六〇七・〇〇	△二一・六六
歲入合計	五八五・三三	六〇七・〇〇	△二一・六六

統計大會積立金現在高調

(昭和十二年二月末日現在)

金七百貳拾四圓七拾八錢	昭和十一年一月末日現在
金七百貳拾四圓七拾八錢	昭和十一年一月末日現在
金參百六拾六圓六拾貳錢	昭和十一年度積立金(前年度繰越金ノ三分ノ一額)
金參百六拾六圓六拾貳錢	昭和十一年度積立金(前年度繰越金ノ三分ノ一額)
金拾六圓參拾九錢	昭利十一年度收入預金利息
金拾六圓參拾九錢	昭利十一年度收入預金利息
保管方法	
金壹千九拾九圓	定期預金(常陽銀行)
金壹千九拾九圓	定期預金(常陽銀行)
金八圓七拾九錢	昭和十一年十月十三日特別當座預金(常陽銀行)
金八圓七拾九錢	昭和十一年十月十三日特別當座預金(常陽銀行)

統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら、御問合せ下さい。御上にて町誌に於てお答え致します。

〔問〕 公私有林野面積の調査にて年末現在により樹林状態を爲せるものは立木地とし、其の他は無立木地として調査すべし、とあるも樺林の伐採跡地の如く翌年は成林の見込確實なるものも無立木地として調査すべきものなりや。

〔答〕 年末現在の現状により調査すべきものなるを以て假令翌年は成林の見込充分なりと雖も無立木地として調査せられたし。

〔問〕 牛、豚、山羊表中満一年未滿(豚は満十ヶ月未滿)一頭當價格の調査に就きては生後の経過日數を異にする關係上頗る困難なり、依つて生後何ヶ月位を標準として調査せば可なりや。

りや。

〔答〕 價格の調査に就ては大正四年三月十八日農林省通牒を以て「年内出産の價額は牛に在りては出生後滿六ヶ月のものを調査し、其の年七月以後に出生したるものは滿六ヶ月の價額を見積りて調査し、羊豚に在りては出生後滿二ヶ月のものを調査し其の年十一月以後に出生したるものは滿二ヶ月の價額を見積りて調査すべきものとす」とあるを以て右により調査するも差支なし、然れ共牛、山羊の如く其の生産比較的少きものにありては實際に賣買せらるる價格に依り調査せられたし。

〔問〕 牛乳表中乳牛頭數の調査に於て將來搾乳の目的を以て飼養せるも未だ搾乳の時期に達せざるものは乳牛として調査せざるも可なりや。

〔答〕 たとへ乳牛として飼養しありと雖其の年内に全然搾乳せざる牛は調査計上せざるものなり、又反對に勞役を目的とする牝牛より其の年内に搾乳したる場合に於ては之を乳牛頭數として計上すべきものなり。

〔問〕 作付段別調査原簿面合計段別と耕地面積田、畑の合計段別とは符合するものなりや、又符合せざるものなりや。

〔答〕 耕地面積へは畦畔段別を含むも作付段別へは畦畔段別は含まざるに付原簿面段別へ畦畔段別を算入しあらざる場合は兩者符合せざるものとす。

〔問〕 河川のみに於て季節的に漁撈に従事し年末に於ては従事し居らざる者も水産業者として調査すべきものなりや。

〔答〕 河川、湖沼、近海、沖合、遠洋たるを問はず十五才以上の者が季節的に漁撈に従事したる場合は、たとへ年末現在には従事しをらざるも水産業者として調査せられたし。

〔問〕 水産業者中本業とは如何なる範圍の者なりや。

〔答〕 本業とは主として漁撈、製造又は養殖に依りて生計を営むものなり

〔問〕 多人數共同して溜池に養殖を爲す場合其の代表者を業主とし他を被備者として可なりや。

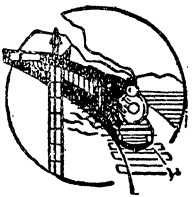
〔答〕 水産業者は各個人の職業を調査するものなるを以て各個人を對象とし團體又は組合を對象とせず、從つて代表者たると否とを問はず凡て各個人に付其の業態に依りて區別すべきものなり、故に業主、被備者の別も各個人に付業務を主宰經營するや又は其の下に於て事務、技術、勞務に従事する者を被備者として調査せられたし。

〔問〕 河川にある小舟も漁船として調査すべきや。

〔答〕 漁業に従事することを目的とする以上は之を調査せられたし。

〔問〕 會社票に就て一數年前より主たる業務を行はず全然廢業したる會社にて清算もせず又破産手續もせざるものあり、斯る場合實際に於て會社は有名無實なるも會社票を提出せしむべきものなりや、此の場合會社よりの提出を待たず町村長に於て便宜清算中等と報告するを以て事務の完結を付くる様出來ざるや。

〔答〕 清算又は破産或は消滅移轉の會社に在りても正式に解散手續を爲さざる以上は年々其の會社票は提出せしめられたし、而して會社票に記載届出をなす義務者は其の會社の代表者なるも若し其の不在なるときは事實上之に代るべき人より提出せしむべきものなり。



各地統計雜信

調査員諸君
何なりと齎
つて御通信
を願ひます

東茨城郡支部總會

統計協會東茨城郡支部では二月九日東茨城郡町村長會事務所に於て定期總會並事務研究會を開催し、縣より小泉屬、小倉主事補が出席した。最初粉川支部長の開會の挨拶に次で昭和十二年度東茨城郡支部歳入歳出豫算及び會則中一部改正の件を附議し、江橋幹事より夫々説明ありたる後滿場異議なく之を可決し、次で事務研究會に移り、縣提出議案に付き小泉屬より詳細なる説明あり、熱心に研究する處あつて午後一時散會した。出席者左の通り

(縣)小泉屬小倉主事補(郡統計協會支部)
粉川支部長、江橋幹事、上大野村横須賀助役、下大野村平戸書記、稻荷村江橋書

那珂郡西部研究會

一月二十三日全郡靜村小學校に於て統計事務研究會を開催、縣統計課より

記、大場村渡邊書記、酒門村坂場書記、石崎村大和書記、吉田村皆川書記、綠岡村中村書記、河和田村丸山助役、上中妻村藤地書記、長岡村寺山書記、上野合村田家書記、白河村眞家書記、橋村林書記、小川町高野書記、竹原村大貫書記、堅倉村加納書記、川根村道川書記、鯉淵村坂田助役、中妻村大岡書記、渡里村須能書記、飯富村安島書記、山根村園部書記、石塚町飯村書記、小松村園部書記、坪村島山書記、岩船村平賀書記、澤山村小林書記、伊勢畑村楡山書記、磯濱町河上書記。

統計主任者異動

(上は新任、括弧内は舊)

- 昭和十二年一月一日 久慈郡山田村 和田 達雄 (和田 幹)
- 全 大川 佐久治 (信田 信胤)
- 全 石塚 瀧藏 (秋庭紀之助)
- 全 鴨志田 次男 (鴨志田一徳)
- 全 山田 健 (高柳 三郎)
- 全 文藏 喜一郎 (川口増次郎)
- 全 林 政雄 (大石吉次郎)
- 全 岡崎 克 (片岡 榮三)
- 全 大川 禎一 (君和田源司)
- 全 眞家 春吉 (小野 精一)

齋藤主事補が臨席した。午前十時四十分杉山靜村長の開辭に次で齋藤主事補より本年春季調査に當り細則に基きて諸準備を整へ調査の完璧を期すべきこと、統計調査員の指導訓練方、報告期限の勵行方、統計簿冊の整理方並一月末より三月末日に至る諸報告表に就き製表上の注意あり、引續き各町村より提出の質疑事項に付夫々應答を爲し午後一時十分閉會せり。出席者は左の通りである。

靜村杉山村長、寺門書記、瓜連町龍崎書記、大宮町藤田書記、大場村三村書記、上野村萩谷書記、玉川村長書記、野口村西村書記、大賀村大森書記、山方村根本書記、鹽田村岡崎書記、小瀬村橋本書記、八里村田澤書記、楡澤村岡崎書記、長倉村古田土書記、巖郷村飯田書記。

商工統計打合

商工省屬進藤平氏及商工技手高橋信敏氏は商工統計事務打合せの爲、二月二十五日來縣、統計課に於て工場統計並商工統計に關し打合する處あつた。

欄者讀

誌友各位に撒す

眞壁郡五所村
谷貝 英二

我が茨城統計は發刊實に第三卷第二號を迎へました其の間調査員各位に便宜を興へ來つた事實は實に尠くないと存じます。統計調査員は振つて本誌を活用致す事を願つて止まない次第であります。

私は本年僅に十七才、一統計調査員の子供で御座いますが、本誌を隅から隅まで讀み、以つて自分の所有地は勿論の事、我が字の事に就ても出來得る限り研究を進めて行き度いと思ふ一人で御座います。

統計模範町村の記事が毎號續けて掲載されてゐるのを讀む毎に暇の少いにも拘らず夜も寝ずに苦心奮闘して居られる調査員の姿がまさしくと浮ぶので御座います。何事も大なる成功を收むる蔭には云ふにいはれぬ苦心と努力が

必要な事は今更言ふを要しません。一調査員の研究して立派に調査したもの本縣、ひいては我が大日本帝國の前途に新なる光明を見出して堅實なる進歩發展に貢献する事蓋し少からずと思ひます。之からは花の季節であちこちに行業する人の多い事と存じます、然し其の遊行は果して役にたつて御座いませう

か、金の浪費以外に餘り爲になる事はありますまい。然らば統計調査員は熱心に春の統計調査に努力される事と思ひます。こんな事は年の若い何もわからぬ私の口から申上げる事は誠に失禮で御座います。が誌友各位の發奮努力に些かなりとも資料となり得れば幸甚と存じ申上げる次第であります。

▽調査員異動

(上は新任折込内は苞)

昭和十二年一月四日	猿島郡森戸村	昭野近之助	稻敷郡源清田村
羽鳥千代治	(染谷 喜一)	富田 定吉	(荒井伊三郎)
全 染谷 喜作	猿島郡五霞村	一月十八日	筑波郡眞瀨村
全 小澤 文雄	(松本 作次)	榎戸 捷男	(平岡愛太郎)
全 鈴木 重喜	(關口市太郎)	沼尻 信一	筑波郡田井村
全 小林 榮三	(塚谷 源市)	一月二十八日	(櫻井 武男)
全 増山 政雄	(岩木 佳之)	關内郡常雄	久慈郡金砂村
全 上田 甲午	新治郡林村	菊池 甲子雄	(後藤 進)
全 田口 惣藏	(三輪 積善)	菊池 正雄	(關 皓)
	(島田 久吉)	二月十五日	東茨城郡光
	鹿島郡波野村	八文字 英	(本村謙次郎)
	(信田 仲治)	二月十五日	(東茨城郡長岡村)
		二月十五日	(井坂彌衛門)
		二月十五日	(鳥羽田庄七)
		二月十五日	(東茨城郡長岡村)
		二月十五日	(根矢 貫一)
		二月十五日	(雨谷 貫一)



短歌

舟 四郎選

「早春雜詠」「梅」

(實)
結城郡豊加美村 沼尻 蛙村
春さりとて寒さゆるみしうら庭に米とき水のすてられてあり
引き残る畑の球菜は春さりとともしき花をつけにけるかも

○
行方郡大和村 六 統 生
小票手に畑徑回りペンを執る春季調査に風まだ寒し
大原村小原 來 栖 浩太郎
春早さ日さし浴びつゝ田を打てば足にぬめらに鱈觸れり
祖父の忌の近づきければ姉上は梅の小枝を生け給ひけり
鹿島郡中野村 大 川 痴 舟
春はまだ淺きながらに芹生る澤田の水にかぎろひ立ちぬ
新治郡藤澤村 吉 沼 喜一郎
汗ばみて外とう重くなりけり梅咲く公園の眞晝のぬくみ
行方郡延方村 黒 須 一 雅
朝の間の閑けき庭梅に對ひつゝひとり端居に煎茶飲み居り
稻敷郡太田村 五十嵐 康 尊
吹きつゝのるゆふべの東風に飛び散りて梅の落花のしきりなり

けり

吹く風ははまだ寒けど畑の麥日毎のびゆく勢ひ著しも
裏山の傾斜ぬくとき日あたりに老木の梅のいま盛りなり
水ぬるむ小川に群るゝ雑魚のかげ一つ一つに底にうつれり
崖下の日さしよろしきみぎはべに芹の若芽は萌えいでにけり
さつぱりとしたる氣持をそのまゝに現す梅の尊かりけり
春淺く別れ行きにし君が身にただ幸あれと我は祈れり
風ぬるみ花を枕にぬる蝶の結ぶゆめこそ聞かまほしけれ

○
春早き梅の林にひとり来て日向の寒き風を怪びしむ

次回

課題「春雜詠」「空」十首以内



前田 猶春 選

題「残雪」「櫻」

○ 稻敷郡君原村 小松澤 霞翠
 ○ 花の色灯の色水に映りけり
 ○ 猿島郡幸島村 小倉 白雨
 ○ 花吹雪あびて藁家の静かかな
 ○ 行方郡武田村 境 谿水
 ○ 咲きほこる古きさくらや圓長寺
 ○ 筑波郡小田村 前川 泰明
 ○ 城山の岩に咲き散る櫻かな
 ○ 鹿島郡中野村 高田 鎌吉
 ○ 山畑に散りて櫻の静か哉
 ○ 稻敷郡太田村 五十嵐 康尊
 ○ 汽車の窓残雪の峽通りけり
 ○ 新治郡藤澤村 吉沼 喜一郎
 ○ 谷の杉折れしまゝなり残る雪
 ○ 西茨城郡大原村 來栖 浩太郎
 ○ 残雪や掃をつみたる納屋のかげ

○ 谷ふかき巨巖のかげや残る雪
 ○ 稲敷郡鳩崎村 坂本 桃水
 ○ 花散るや緋鯉沈みし水の泡
 ○ 北相馬郡高野村 倉持 公太郎
 ○ 残雪や皆陽をうけて峽の樹々
 ○ 多賀郡磯原町 長瀬 一風
 ○ 残雪の半月峙越しにけり
 ○ 筑波郡久賀村 岡宮 陽夫
 ○ 大量をかつきし月や花の上
 ○ 久慈郡袋田村 見代 慈仙
 ○ 窓越しに残雪の山見てゐたり
 ○ 筑波郡大穂村 寶泉居 梅羽
 ○ 残雪や蘭を探りて裏の山
 ○ 鹿島郡中野村 大川 痴舟
 ○ 章魚壺に花一枝や磯の宿

秀逸入賞

○ 行方郡延方村 黒須 恵三郎
 行く人に花の雪洞ゆれやます

次の課題

縮切 五月五日
 課題 「木の芽」「金魚」一人十句限り
 秀逸 粗賞を呈す



柳川

山中 緋郎 選

「表彰」

行方郡武田村 境 谿水
 隠れたる美談と共に今日の榮
 鹿島郡豊郷村 石津 思水
 表彰式紅顔暫しかしこまり
 北相馬郡高野村 倉持 公太郎
 表彰へ胸時めかす事ばかり
 北相馬郡東文間村 堀越 正直
 表彰へ祖母を泣かせる親無子
 行方郡武田村 境 谿水
 表彰へかくも名高き事をなし
 鹿島郡豊郷村 林 鹿洋
 表彰の子より親爺の嬉し顔
 眞壁郡川西村野爪 大久保 實
 表彰をされる女子の肩のつゞぎ
 稻敷郡太田村 五十嵐 康尊
 表彰の娘に嫁の口あり餘り
 東茨城郡石崎村 九 區 男
 表彰をされて責任なほ重し

行方郡大和村 六 統 生
 表彰の報せ一家を湧きたゝせ
 【秀逸】 行方郡延方村 黒須 一雅
 其の儘でカメラに入る表彰者

次號課題「電話」

縮切 四月二十日 葉書一人五句以内
 宛名 茨城縣統計協會編輯部
 秀逸 粗賞呈

茨城統計と廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百八十ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種団体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものと信じます。

●本誌の廣告料金は左の通りです。
 特別(一頁(表紙表裏) 金拾五圓
 一頁(表紙裏) 金八圓
 普通(一頁(表紙裏) 金八圓
 一頁(表紙裏) 金四圓
 四分ノ一 金貳圓

▼同一廣告を引續き二回以上おときは、一割五分、五回以上おときは二割の割引をします。
 ▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。
 ▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内
 茨城縣統計協會

編輯後記

春が来た。野にも、山にも、雨の音にさへ春は静かな歩みを寄せる。そして枯死した様な自然の姿を甦す。若芽は驚くばかりの力で萌え出で、梅や桃や櫻の花は麥の背や菜種の黄と点綴して軟かな毛氈を敷きつめた様、そこに歌と詩が奏でられ、營々の活力が湧く。

忙しい春季調査に従事される縣下の統計關係者各位もこの力に恵まれて新な覺悟と期待のうちに活躍を試みられて居ること、御察しする。茨城統計の名譽と進展の爲に更に一段の御奮勵の程を祈つて止まない。

創刊以來麗筆を揮ひ且つ老巧な編輯振りによつて本誌を盛りたて、來た富岡如夢君の急逝は惜みても餘りがある。搦らずも私が其の後を繼いで本號から編輯を擔任する

事になつた。非才、魯鈍、編輯を終るに當り省みて甚だ忸怩たるものがある。幸に川崎統計課長を始め係員各位と讀者諸賢の御指導御鞭撻によつて將來の成果を期したい。

『茨城統計』は本縣統計の向上と共に進展させたいものである、それには是非關係者讀者諸君が「自分達の茨城統計」といふ觀念のもとに御協力を願ひ度いのである。殊に縣下統計調査員各位の連絡と親睦の機關として、或ひは實務研鑽、技術切磋の道場として御利用あらん事を御願ひする。

「自分達の茨城統計」を作るといふと如何にも億劫に考へられる向もあらうが、至極に、手軽に、簡単に原稿を御送り下されば有難い、所謂寸翰零墨で結構である。雜誌は原稿が多ければ多だけ讀みごたへのある有益なものが出来るのである。視察記、感想、体験談、研究、その何たるを問ひません、是非澤山の玉稿を頂き度いものである。

本號は多年の努力が報いられた統計功勞者の表彰を記録するに力を注いだ、従つて他の記事は割愛の止むなきに至つた事を御諒承願ひたい。次號からは讀者諸君の玉稿を出来るだけ掲載したいと思ふ。改めて御教示御指導を望む。……加藤敬愛……

昭和十二年三月十三日印刷
昭和十二年三月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會内

發行兼 編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會